

第17回スペクトル管理SWG議事録

1. 日時:平成16年10月8日(金)10:00 ~ 18:40

2. 場所:TTC 事務局4F DE 会議室

3. 出欠者:

出席会員数 / 全会員数 20 / 34 (出席数には議長委任状を含む)

出席委員数 / 全委員数 30 / 71 (出席数には議長委任状を含む)

以上により会議は成立した。

4. 会議資料:議事次第、各種寄書

5. 議事要約

5 - 1. 議事次第について承認<SMS-17-01>

5 - 2. 議事担当は、KDDI

5 - 3. 前回議事録<SMS-17-01>を承認

5 - 4. 同一収容局に設置されていないシステム間のスペクトル管理(課題 C7)

これまで、2回開催した局設置 xDSL システムとビル設置 VDSL システムとの干渉に関するアドホック会合の結果を説明。同アドホック会合を進めるに当たっては、本SWGで決定してもらうべき要請事項は無いことを確認。また、同アドホック会合の審議は、本SWG会合の審議スケジュールに歩調を合わせて行うことを確認。

5 - 5. 保護判定基準値(課題 C3)<SMS-17-04,05>

先に行われた保護判定基準見直しに関する事業者間アドホック会合でJJ100.01第2版と同様の考え方で決められる『保護判定基準値』の他に、新規システムのスペクトル適合性を判定するための『導入判定基準値』を新たに設けることを審議した。2つの基準値を設けることを確定する合意はなかったが、本案における判定基準の目的や課題などの「検討するための方向性」について合意を得た。なお、導入判定基準値設定の具体的な条件である TCM-ISDNの扱いや計算方法などの審議は進まなかった。

導入判定基準値について、リーダーから、JJ100.01第2版と同様の考え方で保護判定基準値を決め、その値を基準に何らかの演算を施したものを『導入判定基準値』とする提案があった。この提案に基づき、羽賀サブリーダーを取り纏め役としてボランティア会員を募り、様々な条件で基準値の計算を行い、その結果をもとに次回会合で保護判定基準値と導入判定基準値について、審議することで合意した。

5 - 6. 線路モデル(課題 C4)<SMS-17-06,07,08,09>

『課題C.4.3 干渉源の数を変更するか?』は、

(ア) 同一カッド収容ありの場合、カッド内1回線のみとする。

(イ) 同一カッド収容なしの場合、隣接カッド1回線のみとする。

で合意した。但し、将来、この回線数を変更する場合は多重漏話減数量の算出式(値)を見直す。(ア)については、フィールドデータをもとにカッド内1回線+隣接カッド1回線を用いる案が出されたが、漏話電力の総和の累積99%値(危険率1%値)を計算したところ、カッド内1回線のみでの漏話減衰量のほうがより小さかったため、安全サイドを取ってより厳しい(ア)の条件で計算を行うこととなった。

『課題C4.12 適合性計算の伝送速度にラインレート以外の速度を使用するか?』は、ラインレート速度使用することで合意した。

5 - 7 . 課題表整理<SMS-17-02>

『課題C . 3 . 1スペクトル適合性の評価に Annex C FBM を考慮するか?』をクローズする。

課題C . 4 . 3「干渉源の数を変更するか?」は、今回の審議で5 - 6 の通り合意が得られたためクローズする。同様にC4.3.1と課題C6.4「干渉源の数は少なくすべきか?」もクローズする。

課題C4.12「適合性計算の伝送速度にラインレート以外の速度を使用するか?」をクローズする。

課題C7.2「RT設置のシステムをスペクトル管理の対象に含めるか?」および課題C . 7 . 3以下の課題は、アドホック会合の合意事項を適用することとし、クローズする。

6 . 今後の予定

次回の会合は、以下の日程で開催予定。

10月29日(金)10:00 ~ TTC4F(確定)

11月19日(金)10:00 ~ TTC4F(予定)

以上